

第8回三条市避難所検討委員会会議録（要点記録）

- 1 日 時 平成25年1月25日（金）13：30～14：30
- 2 場 所 三条市役所 三条庁舎 3階 第一会議室
- 3 出席者
（委員）
小林委員長、土田副委員長、須佐委員、熊倉委員、藤田委員、堂坂委員、長谷川委員、堀委員、李委員、渋谷委員
（アドバイザー）
群馬大学大学院金井准教授、群馬大学大学院島研究員
（事務局）
若山総務部長、堤行政課長、上原防災対策室長、石塚主査、西澤主任、岡田主事
- 4 委員会記録

(1) 開会にあたり、留意事項の説明（委員長）

ア 昨年12月定例会の総務文教常任委員協議会において、これまで避難所検討委員会で検討してきた避難所の見直しについて、事務局が報告して協議を行ったということから、そこで出た意見等について事務局から報告してもらう。

イ その後、避難所検討委員会としての検討結果を最終的に取りまとめ、答申という形で市に提出する。

(2) **議 事**

◇昨年12月定例会の総務文教常任委員協議会で出された主な意見等の報告

○事務局

平成24年12月14日に開催された総務文教常任委員協議会で出された主な意見等について、報告させていただく。

まず、「地域によっては指定避難所まで距離がある場合もあり、水害時には避難する道中で災害に遭う危険もあるため、そういうことについても検討されたのか。」という質問があった。

それに対して市側は、「市民に対しては、垂直避難も含め自宅の構造によって2階以上に避難すべきか、避難所に避難すべきかについて普段から考えていただくよう引き続き呼び掛けることとして、今後、命からがら避難のための緊急避難場所について、民有施設を含め、地域内に鉄筋の2階建て以上の建物があれば、貸していただけるよう、地域と協力しながら選定を進めていくこととしている。」と回答させていただいた。

また、「検討委員会のメンバーの中には自治会長や自主防災組織、ボランティア団体の方々、民生委員の方々も入っており、大変よい形での検討委員会だと思

う。民有施設については、地元の方が標高や建物構造など一番よく知っているため、地元の意見をよく聞いて決めていただければと思う。」という意見があった。

これに対して市側は、「今後、地域で緊急避難場所を探していただく中で、行政主導というより、地域の方々でやっていただくのが一番効果的だと思っており、行政としては後方支援にまわり、できる限りのバックアップをしていきたいと思う。」と回答させていただいた。

また、「命を守る避難所の検討には、女性の視点、女性への配慮、障がい者に対する配慮といったものは入っているのか。」という質問があった。

これに対して市側は、「検討委員会では二人の女性に委員として入っており、検討を行う中で、例えば住民自身が準備すべきものとして、家族構成によって粉ミルクや紙おむつ、生理用品が必要であるということとした。それぞれの立場で広範な意見が出され、取りまとめられたものである。」と回答させていただいた。

また、「避難所で必要なものを決める際に、妊婦さん、乳幼児、障がいを持っている方へ間仕切りや個室を用意するといったことや着がえなどといった、男性ではわかりにくい女性への配慮や障がい者への配慮が必要となり、これらの方の声を聞きながらいいものを作っていただきたい。」という意見があった。

これに対して市側は、「基本的にはご指摘いただいた考え方でまとめられており、今後、避難所が開設された場合、個々具体的に何が必要となるかは、実際の避難所運営のそれぞれの現場で判断することになるが、避難されている方々ができるだけ不自由なく、気持ち良く過ごしていただけるよう、避難された方々からも協力していただきながら、避難所の運営に当たっていきたい。」と回答させていただいた。

以上が総務文教常任委員協議会で出された主な意見及び市側の回答である。

なお、これら意見については、今まで本検討委員会でまとめてきたものに修正や検討などを加える必要はないと考えている。

○小林委員長

今ほどの報告を受け、それらを踏まえて我々の検討結果について、修正や検討などを加える必要はないとすることとしてはいかがか。

[異議なしの声あり]

◇答申書(案)の取りまとめ～市長への答申

○事務局

それでは、これから事務局で最終的に答申書としてまとめさせていただき、皆さんから内容についてご確認いただいた後、それを市長にお渡ししていただくこととしてはどうかと考えているが、いかがか。

○小林委員長

それではよろしいか。

[異議なしの声あり]

○事務局

それでは、答申書の案を作成させていただくので、少しお時間をいただきたい。

○小林委員長

それでは、答申書の案ができるまで、5分ほど休憩とする。

[休憩]

○小林委員長

それでは、会議を再開する。今ほど、答申書の案を配付していただいたが、事務局から読み上げていただくとともに、やり方について説明していただきたい。

○事務局

※答申書の読み上げ

～三条市避難所検討結果について（答申）平成24年5月24日に、当委員会に検討を依頼された避難所のあり方について、選定基準、選定方法及び開設・運営方法等について、避難者の立場に立ちながら慎重に検討を行った結果、「三条市避難所検討結果」のとおり答申いたします。～

なお、「三条市避難所検討結果」については、これまで検討してきた内容を取りまとめたものである。

○小林委員長

答申書の案について、これでよろしいか。

[異議なしの声あり]

○小林委員長

それでは、これを当委員会のまとめとして、市長に答申することとする。

○事務局

それでは、市長から入っていただくので、しばらくお待ちいただきたい。

[市長入室]

○事務局

それでは、小林委員長から國定市長に答申書を手渡していただきたい。

○小林委員長

これまで避難所検討委員会で検討してきた内容について答申させていただく。三条市避難所検討結果について（答申）平成24年5月24日に、当委員会に検討を依頼された避難所のあり方について、選定基準、選定方法及び開設・運営方法等について、避難者の立場に立ちながら慎重に検討を行った結果、「三条市避難所検討結果」のとおり答申いたします。この結果に基づき、今後市の方で見直しを進めていただきたい。

○國定市長

ありがとうございました。一年かけての慎重審議をしていただき、皆さん本当にお疲れ様でした。

一昨年の7. 29水害、それに先立つ平成16年の7. 13水害から、安全安心なまちづくりに向けて皆さんからお知恵を頂戴しながら取り組んできたが、それでもなお、7. 29水害は私どもに様々な課題を突き付けた。特にこの避難所のあり方については、本当に多くの課題を私たちに投げかけた。公共施設に偏らない避難所のありようはどうあるべきか、垂直避難を前提としながらも水平避難をしなければならなくなった時に、それぞれの地域性を考えた中で望ましい避難所形態はどうあるべきか、あるいは避難所生活が長期間に及んだ場合の避難所のありようはどうかということ、私どもの重要な検討課題であった。

私どもとしても、この答申の結果を十分捉えながらよりよい安全安心なまちづくりの道筋を作り上げていきたいと思う。

皆さんのこれまでの長い期間に渡るご尽力に心から感謝を申し上げ、引き続き安全安心なまちづくりにご協力いただきたい。

○小林委員長

以上で、第8回避難所検討委員会を終了する。委員の皆さまにおかれては、5月24日の第1回検討委員会から本日の第8回検討委員会まで9か月間に渡り検討していただき、大変お疲れ様でした。また、皆さまの熱心な検討のもと、検討委員会として一定の結論を導き出すことができ、このたび國定市長に答申を行うことを以って委員長の大任を無事終えることができたのも、委員の皆さまのご協力の賜物である。改めて、深く感謝申し上げます。